

「クボ・イワ」：バリ島のお話



お話を書いた人：Sherrene Chua（シュリーン・チュア）

むかしむかし、バリのキンタマーニに、とて
も大きな人がいました。名前はクボ・イワで
す。かれはとても大きくて、強いです。

ときどきクボ・イワは村の人を助けたり、家
やお寺などを作ったりします。



クボ・イワはとてもよく食べます。でも、手
伝った後は、村人の百人ぶんの食べ物をほ
しがります。村人たちちはたくさん料理を準備しないといけません。



た　もの
食べ物がなかったら、クボ・イワは怒りま
むらびと　いえ　てら　ぜんぶ
す。村人の家やお寺などを全部こわしてしま
います。

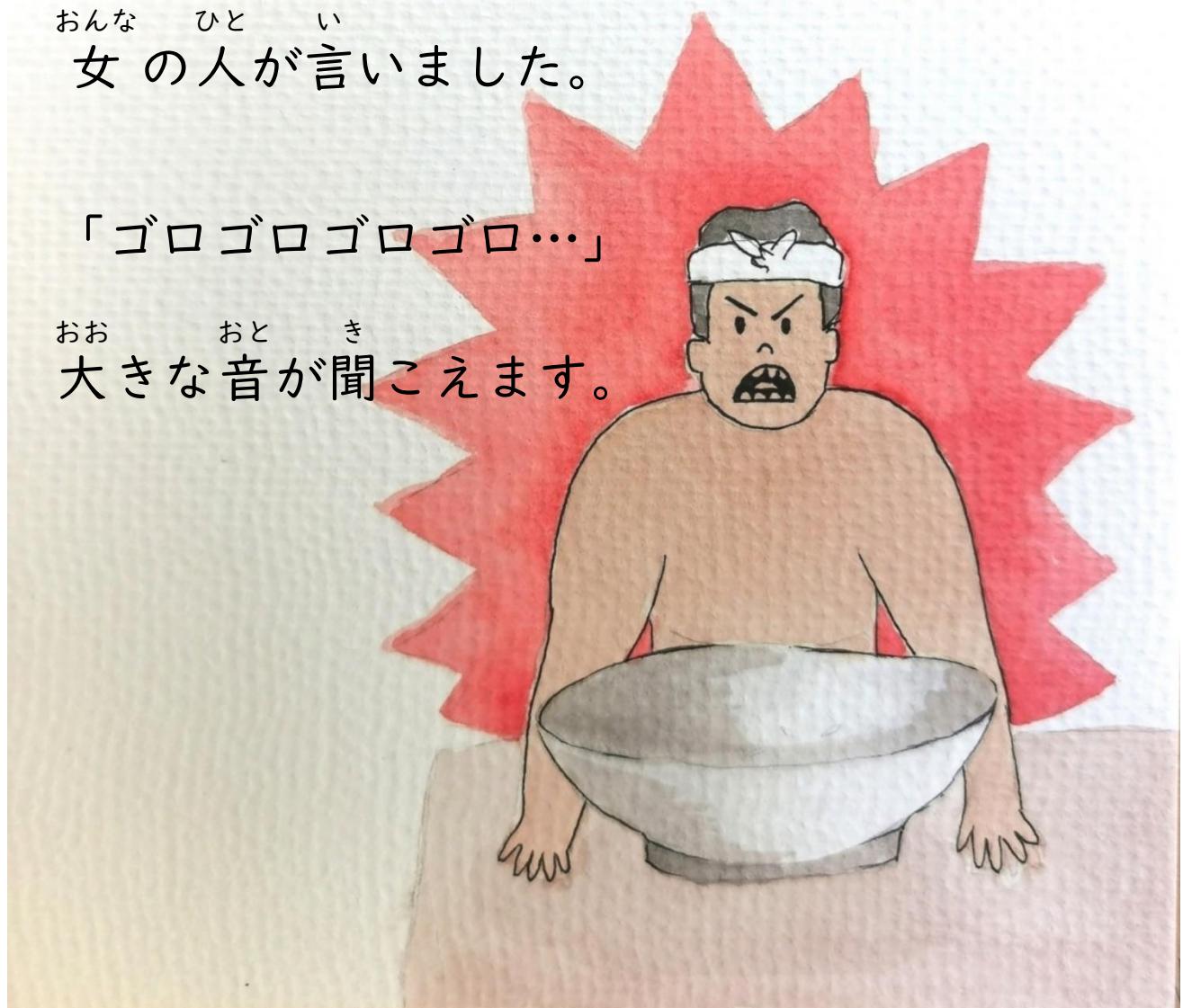
た　もの
ある日、食べ物がありませんでした。それは
いつ　げつかん　あめ
1か月間、雨がふらなかつたからです。



「ああ、おなかがペコペコ！ 食べ物はどこ？ もはやく持ってきて！」 クボ・イワが言いました。

「すみません、クボ・イワさん。食べ物があります。雨がふりませんから。」 となりの女の人おんなが言いました。

「ゴロゴロゴロゴロ…」
大きな音おおおとが聞こえます。



クボ・イワは怒って、みんなの家をこわしました。
した。村人たちはパニックになりました。そして、村人たちは計画を立てました。

次の日、村人たちはクボ・イワの家に行きました。

「クボ・イワさん！ 昨日のこととは本当にごめんなさい、今日はすぐ食べ物をもってきますね。」

「でも、 料理するのに水がいります。 ク
ボ・イワさんは井戸を掘ってください。 私
たちは 料理します。 たくさんおいしい 料理
を作りますよ。」

「200人ぶんの食べ物がほしいぞ。」 クボ・
イワが言いました。

「はい、わかりました。」 村人たちが言いま
した。



そして、クボ・イワが笑いました。

「ハハハハハハ！ いま始めるよ。」

クボ・イワは、長い時間、井戸を掘りつづけました。2時間、3時間、5時間。午後6時ぐらい、井戸は深くなりました。クボ・イワはとても疲れていました。





「^{つか}疲れた！ ^{ぼく}僕はこの井戸で^{いど}寝るぞ。」^ね

かれは言いました。



「はやく！ クボ・イワを埋めるぞ！」

むらびと 村人たちはクボ・イワが寝ている時に、

い 言いました。「おう！」

つち いわ 土と岩をたくさん井戸に投げました。ク

ボ・イワは起きた時、からだが動けなくて、死にました。

そして、クボ・イワがなくなった井戸は
バトゥール湖になりました。かれが掘つ
た後の土がバトゥール山になりました。

(バトゥール湖とバトゥール山の絵)

